

サッカーワールドカップに関する新聞記事の分析

永井 啓之

現在、スポーツはマスメディアにおける主要な報道の一つである。新聞においても、その初期からスポーツ報道を行っており、スポーツと新聞を含むマスメディアには深い関係があるといえる。そして、マスメディアと最も関係が深いスポーツの一つがサッカーワールドカップ（W杯）である。W杯は、世界最大の規模と人気を誇るスポーツイベントであるが、その誕生と発達の背景にはマスメディアの発達があるといわれる。

日本においても、W杯は一大スポーツイベントであり、新聞では特集が生まれ、テレビでの試合中継は高い視聴率を記録している。しかし、日本でW杯がメジャーになったのはここ最近のことである。では、それ以前のW杯報道はどのようなものだったのか。新聞を含むマスメディアとW杯に関する研究はいくつか行われているが、特定の大会について行われているものがほとんどであり、全体的な分析を行っている研究は少ない。この研究では新聞を用いて、W杯が開始した1930年から現在までにW杯報道がどのように変化してきたか、また、新聞におけるW杯報道の特徴や内容について分析し、新聞がW杯をどのようなものと捉えているかをみることを目的とした。

経年的・数量的な分析を行うため、新聞記事DBが利用可能な全国紙を分析対象とした。主な分析方法は、年別記事数、紙面別記事数の測定、記事内容別記事数の測定である。分析には、朝日、読売、毎日、日経の4紙の記事DB、朝日の記事DBを用いた。

分析の結果は以下のとおりである。

年別記事数では、1990年代以降記事数が急激に増加しているが、その背景にはJリーグによるサッカーブームやW杯大会の誘致によるW杯への関心の高まりがあった。また全体的に、新聞におけるW杯報道はサッカー人気による影響を受けていることが分かった。

紙面別記事数では、スポーツ面を除くと、朝刊・夕刊共に総合面や社会面での掲載が多く、W杯が新聞において主要な話題であると同時に、社会一般の出来事として扱われるようになっていることが分かった。

内容別記事数では、海外チームや海外のW杯関連の出来事などに関する記事が多く、W杯が国際的なスポーツ大会であるということを強調していた。また、様々な内容でW杯報道を行う一方で、社会的な話題となったチケット問題やフーリガンなどは、話題になった年のみ取り上げるといった特徴がみられた。

（指導教員 池内淳）